

ヒトの鳥インフルエンザ(H7N9)の過去と現状 ～国内へのウイルス侵入防止のために～

大槻公一 OTSUKI Koichi/京都産業大学鳥インフルエンザ研究センターセンター長

2013年3月末、中国政府は東部の大都会で高い死亡率をとまなう重篤な肺炎を主症状とするインフルエンザが発生していること、原因ウイルスの亜型はH7N9で鳥類に病原性を示さない低病原性鳥インフルエンザウイルスであることを発表した。このヒトの鳥インフルエンザ発生は現在でも継続し、発生地域も中国の主要な地域すべてに拡大している。さらに、鳥類に対する激的な病原性を獲得したH7N9ウイルスが2017年1月に南部に出現し、中国国内に広がっている。

H7N9ウイルスのヒトへの感染は発病し重症化した場合のみ診断され、不顕性感染例、軽症例の実態は不明である。病院内あるいは家族内での、ヒトからヒトへの致死的な本ウイルス感染疑い事例も少数ではあるが報告されている。

1. ヒトの鳥インフルエンザ(H7N9)の発生経過

多くの発病例では、食材の動物が生きたまま販売されている生鳥市場内で、商品(鳥類)と接触のあったことが判明している。ウイルス感染の場として本病発生当初から生鳥市場が疑われていた。実際に陳列中の鳥類や環境サンプルからH7N9ウイルスが頻繁に分離されている。中国政府は生鳥市場を再々一時的に閉鎖している。その結果発生は止まったが、市場を再開させたら再び患者が出る状況が続いた。同年10月以降患者数は徐々に増え、12月中旬から急増した。現在では、患者発生カーブは季節性インフルエンザの流行のそれに重なっている。2016～2017年の冬での発生数は著しく増加した。

原因ウイルスは、現在でも鳥インフルエンザウイルスの性状を保っており、ヒトからヒトへの爆発的なウイルス伝播は起きていない。しかし、外見上健康な養鶏関係者のH7N9ウイルス抗体保有率は低くないという成績も示されている。

2. 本来の宿主(鳥類)でのH7N9ウイルスの分布は？

H7N9ウイルスの多くは、農村地帯で飼育されている家禽類および水禽類に病原性を示さずに広く分布していると考えられるが、ウイルス分布の詳細は不明である。中国国外にウイルスが拡散したという証拠は示されていないが、国際海空港のある上海や香港でもウイルスは検出されており、国外へのウイルス拡散が懸念される。生鳥市場の密集しているアジア諸国に、中国からH7N9ウイルスが拡散する危険性は非常に高い。

H7N9ウイルスのみならずH5N1ウイルスに端を発するさまざまなH5亜型ウイルスも、中国国内で年間を通して検出されている。常在化した可能性が高い。すなわち、本ウイルスに感染した家禽類などが、四季を問